

平成 30 年度第 1 回赤磐市行財政改革審議会議事概要

日時：平成 30 年 7 月 19 日（木）午後 1 時 33 分開会 午後 3 時 31 分閉会

場所：赤磐市役所 2 階 大会議室

傍聴人：0 人

1 開会

2 市長挨拶

3 委嘱状交付・委員紹介

4 会長・副会長選出

5 会長挨拶

6 協議内容

(1) 行財政改革審議会の協議概要について（報告）

(2) 第 3 次行財政改革大綱の実施計画進捗状況について（報告）

事務局： 行財政改革審議会の協議概要及び第 3 次行財政改革大綱の実施計画進捗状況について説明。行
革の効果は、経常収支比率や財政調整基金残高の数値に現れているが、まだまだ厳しい状況であ
る。財政調整基金を切り崩さないよう歳出を削減する必要がある、また歳入の増加の取り組みも
重要である。全体で取り組むという姿勢を今年度当初に改めて確認している。

委 員：

- ・財政調整基金が増えているのに、経常収支比率も上がっているのは何故か。
- ・経常収支比率が大きく改善できた一番の取り組みは、どういう取り組みが一番大きな貢献をし
ているのか。
- ・一番は人件費になると思うが、事務局として、どの部分を一番にやって何%が人件費で良くな
ったか、次はどの費用かなどを分析すると、どれをやれば効果があるかないかなどというのが
分かってくる。
- ・人件費が下がればコストも下がるわけなので、経常収支比率も改善してくると思うが、住民に
対するサービスのレベルはどうだったのか。
- ・4 年後に財政調整基金残高が 0 になるものが 3 7 億貯まるとなっているが、その財源の分析・
内訳について、ほとんどが人件費なのかということを調べると、アクションプランの効果が分
かる。その金額の内訳の表を作ったら分かりやすい。
- ・今後、経常収支比率が悪くなっているのは、何が大きな要因なのか。絶対削れないものか、そ
れとも削れるかもしれない部分がいづらかあるか、次回までに増える要素を大まかに分析して
ほしい。

事務局： 次回は平成 29 年度の決算値がお示しできるので、合わせて詳しく説明する。

(3) 第3次行財政改革大綱に基づく「民間活力」の導入推進について

事務局： 第3次行財政改革大綱に基づく「民間活力」の導入推進について説明。

これまで取り組んだ発想にとどまることなく、さらに事務事業全般で検討を行い、市全体でスピード感を持って民間活力の導入を推進していくために、市が最も重視する視点は何かについて、また、どういった視点で民間活用することを決めていくかという一つの基準となるようなことを、一つの事業に特化してというよりは色々な視点で、色々なご意見をいただきたい。

委員：

- ・市がやっている事業で、法律に基づいたような公権力の行使以外は、何でも民間委託できないかという発想をもつ。
- ・民間でできることは全て民間でという発想で、行政は民間のやることを監督、サポートする役割を担う。
- ・委託できるものを探すのではなく、委託を前提で、できない理由がはっきり説明できないなら、委託していいという発想をもつ。
- ・市の職員の20～30%の仕事は、十分民間でもできる。
- ・行政と民間のどちらが効率的にやっているのかと言ったら、誰が考えても民間の方がちゃんと費用対効果を出し、効率的にやっている。
- ・コストがたくさん掛かっているものから取り組むと効果が多くでる。
- ・資料の2、3ページに市の業務が書いてある。これを全部民間委託できるかどうかというチェックリストに使えばいい。
- ・行革で民間委託するとかコストを削減するとなると反対があるのは当たり前なので、プラスの大きいほうを選んでもらうような、反対を説得するための論理が必要。
- ・実際に成功しているところを目で見てもらうなどのプロセスを経ながら論理を蓄積していく。
- ・職員の意識が一番大切。職員全体でしっかり取り組むという意識の徹底を。
- ・市民サービスが低下しないために、頑張って対応を。
- ・地域包括支援センターを社協に委託し、大規模な大会を開催するなど成功している市がある。
- ・社協が包括支援センターの業務をする中で、さらに知恵が湧いてきて、後見業務など先進的に知恵を出して取り組み、全国から視察にくるような市もある。そこでは、包括支援センター業務を社協が行う一方で、市は虐待対応をするなど、協力して成功している。
- ・市の地域包括センターは、担当がローテーションで変わるので、専門がずっとやるのは良い。
- ・図書館では、単に民間委託というレベルでなく賑わいも創出して成功している市もある。コストカットというイメージだけでなく、新たな付加価値がたくさん付いたものとして、賑わい創出、雇用創出など、知恵を出していくという、明るい民間委託のイメージで進めることが大切。
- ・民間の良さを実感し、活用することが必要。

- ・行政は一般的なことをやるが専門職があまりいない。民間は専門で、効率的でアイデアも豊富なので活用が必要。一般と専門の使い分けが非常に大切。
- ・市職員の専門性を高め業務にスムーズに対応するため、職員配置期間のルールを考えるべき。
- ・行政の職員は、色々な部署を経験してノウハウを蓄積し、トータルとして総合力を発揮しながらコントロールできるような人材を育成するという方向性で、能力を高める必要がある。
- ・単にコストカットで人数を減らせばいいというのが行革だと言ってしまうと、行政としてジリ貧になる。民間委託することで浮くマンパワーと時間を、さらに行政をよりよくするため、市民のために何ができるのかという視点が大切。行政の本来やるべき使命を追及するべき。
- ・行革は、もともと創造のための改革で、お金を減らすことが行革ではない。
- ・お金が減る、減らないは二の次で、民間と直接行政がする場合を比較検討するだけでも、民間の良さを理解できる。結論として、行政が直接することになっても良いところを吸収できる。
- ・行革した結果、全部色々なことが良くなるというのが目指す姿。そのことを踏まえて様々な検討することは良いこと。
- ・どれだけの人口規模にどれだけの市職員が必要かという、バランスが大切。
- ・限りあるお金をうまく効率的につかうことに色々な考えがある中で、バランスよく考えていくことが大切。

会 長： 民間活力の導入にあたって色々な意見をいただいた。これをベースにして事務局の方で、次の作業を進めてほしい。

7 その他

会 長： 次回日程は12月までに一度。

委 員： 1年で一気ににはできないかもしれないが、少なくとも目指す姿、目指すところははっきりさせて、目指す姿に到達するには「この事業は3年かかる、この事業は7年かかる」で良いので、トップから全員一丸となってその目標に向けて取り組むというスタンスでお願いしたい。

会 長： 気がついたことをご指摘いただいた。事務局で検討を。

8 閉会 会長挨拶